

MISHIMA INTERNATIONAL
RELATIONS ASSOCIATION

MIRA 通信

<https://mishima-life.jp/mira/>

No. **120** 2022年
令和4年3月15日発行
三島市国際交流協会

〒411-8666
静岡県三島市中央町5-5
三島市役所中央町別館
TEL (055) 976-1020
FAX (055) 976-1021

第2回

MIRAオータムフェア

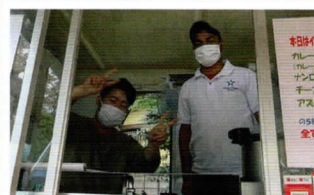
2021年11月7日(日) in 楽寿園

MIRAオータムフェアが開催されました。昨年と同様、コロナ禍にて「国際交流フェア」「新春交流パーティ」の開催が困難なため、屋外イベントとして楽寿園にて行いました。お天気にも恵まれ、穏やかな秋の日差しのなか感染対策を厳重に行い、ステージ発表が6組、飲食と物販の参加が14ブースありました。

ステージ発表では、ハワイアン演奏＆華麗なフラ、子供たちのかわいいフラ、アクロバティックで妖艶なポールダンス、ラテンアメリカの風を感じるフォルクローレの演奏、超絶演奏のアフリカンミュージック、日本人にもなじみ深い世界の音楽の演奏などが会場を盛り上げてくれました。さらに、ブラジル、コロンビア、韓国、シンガポール、イタリア、インド、フィリピン、ペルー、イラン、アメリカの世界各国の料理屋台も充実、アフリカ、フィリピンの異国情緒感じる雑貨の販売ブースもあって、三島にいながら世界を旅しているような一日でした。



コロナ対策もバッチリです



姉妹都市親善 英語スピーチコンテスト

ニュープリマス市姉妹都市提携30周年記念大会



2021（令和3）年10月17日（日）、第58回姉妹都市親善英語スピーチコンテストが、三島市民生涯学習センターにて開催されました。今年はニュージーランドのニュープリマス市との姉妹都市提携30周年に当たり、その記念大会としての開催でした。中学生の部に8人、一般の部に3人が参加し、日頃の学習の成果を発揮して素晴らしいスピーチを披露しました。優劣つけがたい内容でしたが、審査員の先生方の協議の結果、以下の方々が入賞しました。なお、最優秀者に贈呈される宇山杯には、一般の部1位の上地珠希さんが輝きました。

中学生の部

1位	土屋 侑菜（南中3年）	What's Normal Anyways?
2位	大庭 桜（山田中3年）	A world connected by music
3位	守屋 マヤ（錦田中3年）	What Is the Most Powerful Weapon?
審査員特別賞	高橋 彩衣実（南中1年）	Magical Medicines
審査員奨励賞	青木 わかな（北中3年）	The Eyes are the Windows to the Soul

一般の部

1位	上地 珠希（静岡大学4年）	How to Combat Overtourism as a Tourist
----	---------------	--

宇山杯

上地 珠希（静岡大学4年）



入賞者の皆さんと審査員の先生

Mr. James D. Molloy（民間英会話講師）
Mrs. Adrienne Verla Uchida（大学助教）
Mr. Lloyd Wakefield（民間英会話講師）

第4回

三島市・麗水市 友好都市親善 MIRA中国語スピーチコンテスト



於 学習センター3階講義室 令和3年12月5日（日）

12月5日、第4回友好都市親善中国語スピーチコンテストが開催されました。このコンテストは、日本と中国の相互理解と友好交流を深め、中国語学習の成果を発表する機会を提供することを目的に開催されています。

今年もコロナ禍での開催でしたが、フェイスシールドをつけ、こまめに換気を行うなど、充分な感染予防策をとったうえに参加者が集い開催することができました。暗唱部門5名、スピーチ部門10名とコロナにめげることなく研鑽を重ねた多くの参加者が日ごろの成果を競いました。

暗唱部門は暁秀中3年の小川莉歩さん、スピーチ部門では鈴木あやのさんが優勝、最優秀者に贈呈される麗水市長賞には、日本大学3年の竹内信子さんが輝きました。

尚、今年度より麗水市が共催することとなり、各部門の1位及び麗水市長賞受賞者（両部門通じての最優秀者）には、麗水市より麗水三宝の一つである青磁の副賞が贈られます。

暗誦
部門

1位	小川 莉歩（暁秀中3年）
2位	小川 真歩（暁秀中3年）
審査員奨励賞	金子 菜那美（南高3年）

スピーチ
部門

1位	鈴木 あやの『中国語の魅力』
2位	平山 竜太『友よ お元気ですか？』
3位	井手野 祐子『縁』
審査員特別賞	望月 万里衣『私の妹が窓に格言を貼っていた』
審査員奨励賞	大場 弘子『わが町「三島」』

麗水市長賞 竹内 信子『今を楽しく生きること』



審査員の先生

向かって左から（敬称略）
盧 思（中国出身）日本大学講師
李 璧如（台湾出身）中国語教室講師
張 万英（中国出身）中国語教室講師

ブライアン・タケダさんが旭日双光章を受章

令和3年 秋の外国人叙勲で、パサディナのブライアン・タケダさんが、旭日双光章を受章しました。この外国人叙勲は、日本との友好の増進等について顕著な功労のあった外国人に授与されるもので、アメリカ合衆国における日本文化の紹介および日本・アメリカ合衆国間の友好親善に寄与したとして表章されました。

ブライアン・タケダさんは長年に亘り、姉妹都市であるパサディナ市と三島市との交流の発展に尽力され、特に、ブライアンさんの呼びかけで始まった両市の相互青少年派遣事業「フレンドシップ」は、姉妹都市間の交流促進に多大な成果を上げています。



ベトナム文化 触れ合い講座開催



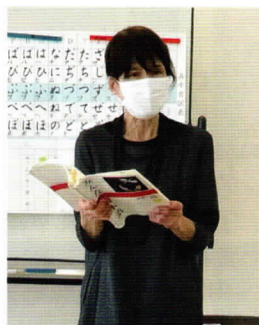
三島市に住むベトナム国籍の方は9月末現在で214人。これは中国の221人に次いで2番目です。にもかかわらず、意外とベトナムってどんな国か、よく知らないのが実情です。そこで、少しでもベトナムのことを理解しようと、10月28日(木)、三島市出身でベトナムで4年間ほど日本語を教えた上杉祐子さんと、沼津市在住で三島市の外国人向けの講習などでベトナム語の通訳をお願いしているタンさんのお二人に、ベトナムってどんな国?と題してお話を伺いました。ベトナムは、街中にバイクがあふれていて3人乗りなども当たり前。54の民族で構成される多民族国家。民族衣装は色彩豊かで華やか。首都のハノイ市やホーチミン市は高層ビルもあって近代的。

海沿いにはハロン湾やホイアンといった世界遺産やリゾート地が点在します。パインミーやフォー、チュー（ライチ+蓮の実）などのベトナム料理についてや、家族の絆が強くカラオケ大好き、などベトナムのライフスタイルのお話もあってとても興味深く、少しベトナムが身近になった1時間半でした。三島在住のベトナムの方たちとの交流がもっと盛んになったらいいなと感じました。



日本語の教え方講座開催

2021年10月8日(金)～12月24日(金)の期間、市役所中央町別館にて日本語の教え方講座が開催されました。コロナ禍の影響で開催期間が変更されましたが感染対策を徹底し、9名の受講者が参加しました。講師は森田陽子先生。日本人の私たちには日本語の意味、表現を外国の人達に伝える事は容易に思われますが、第一言語が違い、生活環境も異なっていた人に伝える事は思う以上に難しいものです。講座では日本語をわかりやすく伝えるコツ、表現などを学びます。日本語を使っている私たちにも日本語の新しい表現方法が学べる講座です。三島で暮らす外国の人たちに三島の良さを上手に伝えたいですね。



森田陽子先生



教科書

第17回

フラワーアレンジメント講座開催



三島市民生涯学習センターにて、10月10日、今年度2回目、通算で17回目のフラワーアレンジメント講座が開催されました。今回は、中国、ルーマニア、アメリカ、日本の4カ国、合計15名の方が参加しました。最初に、ルーマニア出身のリナさんから、祖国の気候や民族、言葉などのお話を伺い、知っているようであまり知らないルーマニアのことを勉強しました。スプレー菊（黄色）リンドウ（紫・ピンク）ケイトウ（赤紫）などの秋のお花と、カボチャとローソクというハロウィンの定番が加わって、色彩もボリュームも豊かなアレンジメントとなり、参加者は皆、創意と工夫、感性を活かした作品に仕上げていました。

James Molloy - MIRA Newsletter #30

JIMのみしまものがたり③0

グッドモーニング、三島

19世紀のボストンに生まれたラルフ・ワルド・エマーソン (Ralph Waldo Emerson) は、詩人、随筆家、また哲学者として世に影響を与えました。1836年に出版された彼の著書「Nature」では、日々の慌ただしさからひと休みするために自然の中を散歩することの必要性を語っています。学生だった私は科学や社会学の教科書を読まなければならなかったため、この本はとても良い気晴らしになる清涼剤でした。そしてこの本に書かれているメッセージは、私が年を重ねていくにつれてもっと実感できるのだらうと、当時感じていました。

昔から私は何か発見できるかもしれないと期待しながら、ただあてもなく歩くのが大好きでした。日本に来て間もないころ、毎日午後に静岡県東部地域の、あらゆる道という道を探索したものです。戸田から原、静浦から下田まで…。探索することによって、街と自分の新しい住まいとのつながりや関係が深まっていくように感じていました。

昨春秋、自分の散歩時間を午後から早朝に変えたことがあります。すると箱根の後ろからちょうど太陽が昇り始めたとき、三島の別の一面を見ることができました。夜が明けていく間、桜川や源兵衛川から霧が立ちこめ、見慣れたはずの街の風景はまるで別世界。見上げた空はタペストリーのように様々な色を織りなし、また足元の影は新たな目的地を向いています。時間の都合さえつければ、一日中歩き続けていたことでしょう！

その時、私は昔読んだエマーソンの言葉の意味を理解したのです。

『人は、朝は全身で歩くが、夕方は足だけで歩く』

ありがとう、エマーソン。そしてありがとう、三島。

また朝に会いましょう。



桜川

カンボジアで就学・就労支援 《三島出身の内田さんが市長に活動報告》

三島市出身で、カンボジア農村部のリエンボン村で就学と就労を軸に支援活動を行っている内田隆太さんが一時帰国し、その活動報告のために2月1日、豊岡武市市長を訪問しました。

内田さんは1992年生まれ、東京都市大学2年の時にカンボジアを初めて訪れ、卒業後カンボジアに移住、子どもたちが教育の機会を少しでも多く持てるようにと、村に小学校を設立しました。さらには学校の敷地内に工房を建設し、若い母親や進学を断念した未婚の女性の縫製技術の習得や就労の機会を作っての自立支援を行っています。子どもたちの就学、若い女性の就労を支えるには、村全体の生活向上が必要です。最近では、人材の育成を含め、村人の生業である農業支援にも着手しました。

今回、2018年から内田さんの活動をサポートしているせせらぎ三島ロータリークラブの役員の方々も同席されましたが、同会は、電動ミシン、文房具、サッカーボールなどを寄贈して内田さんを支援しています。また同会の支援で、2020年には小学校に地下50メートルの井戸を設置、安心して飲める水を供給できるようになりました。



内田さん(右から3人目)

「子ども達だれもが学校に通える暮らしを、村の就労支援を通して実現する」ことを目標に、カンボジアで頑張っている内田隆太さんの活動が、現地で根付き着実に成果を上げることができるよう応援したいと思います。

麦畑 (編集後記)

- ★Walking, and laughter, really are the best medicine. (J)
- ★非常時も変わらずコツコツ学び積み上げる人、尊敬！ (桜)
- ★一向に収まらないコロナ、それでも今年も桜咲く！ (S)
- ★マスク顔、久しぶりに外したら、みんなすっかり老け顔に (明)
- ★Through every dark night, there's a bright day. (y)

申込み・問合せ

- ★三島市国際交流協会 (MIRA) 事務局
TEL 976-1020 FAX 976-1021
- ★三島市国際交流室
TEL 983-2645
三島市中央町5-5三島市役所中央町別館



▲ホームページ